

営業成績（2021年1月）

2021年3月

(単位：百万円、千以、%)

扱別	種別	本年実績	本年計画	前年実績	対計画		対前年		
					増減	比	増減	比	
月計	収入	コンテナ	7,647	8,868	8,872	-1,221	86.2%	-1,225	86.2%
		車扱	1,290	1,257	1,300	33	102.6%	-10	99.2%
		計	8,937	10,126	10,171	-1,189	88.3%	-1,234	87.9%
	輸送量	コンテナ	1,357	1,564	1,584	-207	86.8%	-227	85.7%
		車扱	838	812	838	26	103.2%	0	100.0%
		計	2,195	2,376	2,422	-181	92.4%	-227	90.6%
年度累計	収入	コンテナ	88,515	89,488	95,664	-973	98.9%	-7,149	92.5%
		車扱	10,467	10,313	11,219	154	101.5%	-752	93.3%
		計	98,983	99,801	106,883	-818	99.2%	-7,900	92.6%
	輸送量	コンテナ	15,523	15,709	17,239	-186	98.8%	-1,716	90.0%
		車扱	6,637	6,562	7,200	75	101.1%	-563	92.2%
		計	22,160	22,271	24,439	-111	99.5%	-2,279	90.7%

1. 収入動向

コンテナは、北日本・日本海側を中心とした記録的な寒波に伴う津軽線等の不通及び新型コロナウイルス第3波到来による需要低迷により、全ての品目で計画を下回った。特に、北海道発の農産品・青果物、外食産業向けの食料工業品、樹脂等の需要が低迷する化学工業品・化学薬品が計画を大きく下回った。結果、コンテナ全体では計画比86.2%となった。車扱は、気温の低下に伴い石油が発送増となり計画比102.6%だった。

コンテナ・車扱の合計では、計画比88.3%となった。

[対計画△1,189百万円(88.3%)]

・コンテナ

全品目とも、記録的な寒波で津軽線及び日本海縦貫の各線区が不通となった影響を大きく受けた。農産品・青果物は、外食向けの販売不振もあり北海道から本州向けの玉葱・馬鈴薯・民間米の発送が落ち込み、対計画△301百万円となった。食料工業品は、ビール類・飲料水の販売不振のほか、新潟発の菓子類が減送し、対計画△272百万円となった。紙・パルプは、販売不振に伴う減産で対計画△63百万円、化学工業品・化学薬品は、ペットボトル及び製紙用の樹脂等が減送し、それぞれ△103百万円、△84百万円となった。自動車部品は、国内・欧州向けの販売不振や半導体不足による生産調整の影響も受け、対計画△52百万円となった。結果、コンテナ全体では対計画△1,221百万円（86.2%）となった。

・車扱

気温の低下（東北太平洋側：前年△2.8℃）に伴う石油の発送増、及びセメント・石灰石の好調な発送により計画を上回った。車扱全体では対計画+33百万円（102.6%）となった。

[対前年△1,234百万円(87.9%)]

・コンテナ

記録的な寒波で津軽線及び日本海縦貫の各線区が不通となった影響に加え、新型コロナウイルス感染症に伴う需要低迷もあり、前年を大きく下回った。農産品・青果物は北海道発の玉葱・馬鈴薯・民間米が特に減送となり、対前年△286百万円だった。食料工業品は、外食産業向けビール類や飲料の販売不振、及び地産地消の影響もあり、対前年△259百万円となった。紙・パルプは、販売不振に伴う減産で対前年△68百万円、化学工業品・化学薬品は、製紙用の樹脂及びタイヤ原料等が低調で、それぞれ△100百万円、△80百万円となった。積合せ貨物は、特に北海道を発着とする貨物が大きく減送し、対前年△55百万円だった。

た。コンテナ全体では、対前年△1,225百万円(86.2%)となった。

・車扱

石油は、気温の低下で発送が増えたものの、緊急事態宣言下におけるガソリン需要の低迷により前年を下回った。車扱全体では対前年△10百万円(99.2%)となった。

2. 輸送量動向

コンテナは、新型コロナウイルス第3波到来による需要低迷、及び北日本・日本海側を中心とした記録的な寒波に伴う津軽線等の不通により、全ての品目で前年を下回った。

食料工業品は、北海道・新潟地区を発着とする清涼飲料水や菓子類、及び東北発のビール類が大幅減となった。農産品・青果物は、外食産業向けの販売不振もあり、北海道から本州向けの玉葱・馬鈴薯・民間米等が大きく減送した。また、化学工業品・化学薬品は、製紙用・ペットボトル用の樹脂等が低調に推移しているほか、紙パルプは販売不振による生産調整の継続により前年を下回った。結果、コンテナ全体では前年比85.7%となった。

車扱は、外出自粛によりガソリン需要が低迷する一方、気温の低下(東北太平洋側：前年△2.8℃)に伴い灯油が堅調に推移し、前年を上回った。車扱全体では前年比100.3%となった。

コンテナ・車扱の合計では、前年比90.7%となった。

以上

単位：千トン、%

扱別	品目	本年実績	前年実績	増減	前年比
コンテナ	農産品・青果物	108	147	-39	73.2%
	化学工業品	122	141	-19	86.6%
	化学薬品	101	115	-14	87.5%
	食料工業品	179	223	-44	80.0%
	紙・パルプ	178	198	-20	89.9%
	他工業品	109	120	-11	90.4%
	積合せ貨物	206	217	-11	95.1%
	自動車部品	62	74	-12	84.1%
	家電・情報機器	24	28	-4	85.8%
	エコ関連物資	42	52	-10	79.9%
	その他	227	268	-41	84.7%
コンテナ計	1,357	1,584	-227	85.7%	
車扱	石油	580	569	11	102.0%
	セメント・石灰石	136	130	6	104.6%
	車両	86	82	4	98.1%
	その他	39	57	-18	68.2%
	車扱計	841	838	3	100.3%
合計		2,198	2,422	-224	90.7%

車扱の品目別輸送量は社線発送トン数も含む数値、本年は速報値、前年は確報値)